

2021年度 第2回卒業生調査(2月実施分) 集計結果

実施日：2022年2月14日配信、3月3日リマインド配信

締切日：2022年3月7日

方法：Formsによるアンケート調査（メールによる説明と協力依頼）

対象：15期生（卒後3年目）、17期生（卒後1年目）

	卒業生数	配信数	回収数	回収率%
15期生（卒後3年目）	103	95	9	9.5
17期生（卒後1年目）	120	98	8	8.2

問1

現在の職種

	15期生 n=9	17期生 n=8
看護師	7	7
保健師	0	1
助産師	0	0
その他	2	0

(養護教諭、アシスタントレクター)

問2

現在配属されている領域

	15期生 n=9	17期生 n=8
急性期（新型コロナ病棟含む）	4	7
老年看護	1	0
母性看護	1	0
在宅看護	1	0
公衆衛生看護	0	1
その他	2	0

(学校保健、アシスタントレクター)

問3

本学では卒業時に身につけてほしい能力をディプロマポリシーを掲げています。臨床の現場でこれらの能力を発揮できているかお答えください。

【15期生】

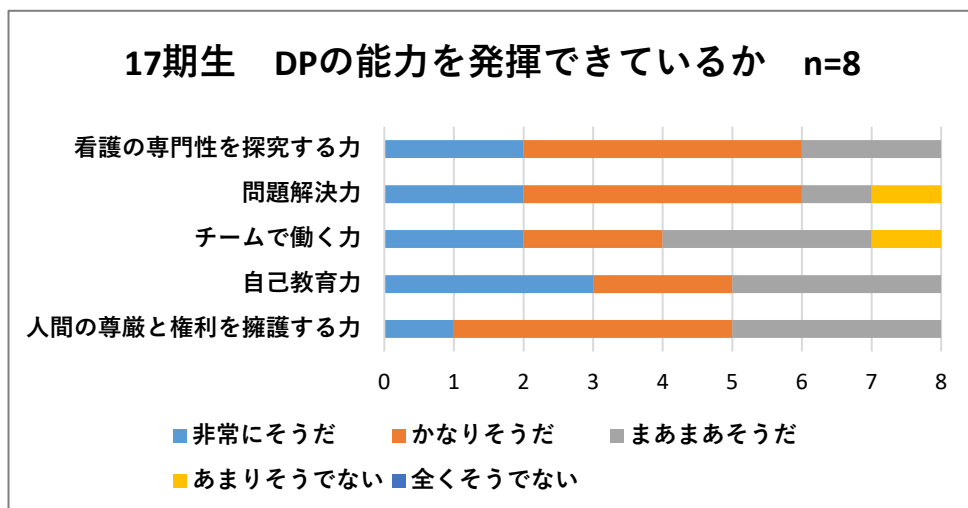
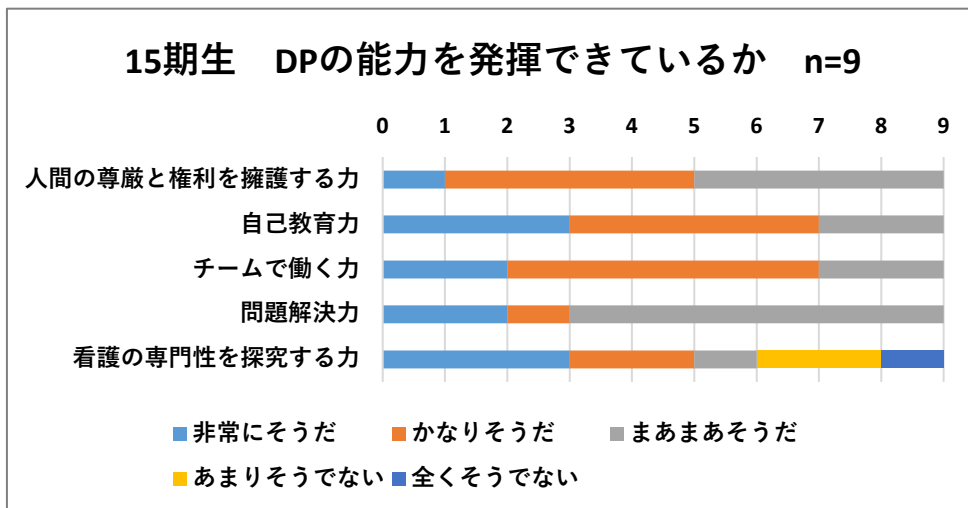
n=9

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない	全くそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	1	4	4	0	0
自己教育力	3	4	2	0	0
チームで働く力	2	5	2	0	0
問題解決力	2	1	6	0	0
看護の専門性を探究する力	3	2	1	2	1

【17期生】

n=8

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない	全くそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	1	4	3	0	0
自己教育力	3	2	3	0	0
チームで働く力	2	2	3	1	0
問題解決力	2	4	1	1	0
看護の専門性を探究する力	2	4	2	0	0



問4

ディプロマポリシーで示される能力以外に、看護専門職として必要となる力は【どのような力】だと思いますか（理由も）。あなたが働いている現場の状況をふまえてお答えください。

さらに、その力を身につけるために【どのようなことを学ぶとよい】と思いますか。

【15期生】

コミュニケーション能力

理由：

訪問看護師として働いていますが、患者様、ご家族、他職種スタッフのニーズを汲み取り、円滑な医療の提供のためにはコミュニケーション能力がかなり必要であるため。

どのようなことを学ぶとよいか：

人と関わる場、実践の場を設ける必要がある。

視野をひろげる。

理由：

業界のことしか知らないと視野が狭くなる

どのようなことを学ぶとよいか：

充実したリベラルアーツ、選択できる専門科目

ストレスと付き合う力。

理由：

ストレスにさらされた時、自分の心身が不安定であると患者への看護にも影響する。

どのようなことを学ぶとよいか：

思考傾向やコーピング方法、成功体験などのリフレクションを積極的にを行い、乗り越える方法を知る事が必要。

仕事の優先順位の付け方、報告、連絡、相談

理由：

1年目の時は優先順位をどのようにつけていくか、また異常をきたした場合すぐに報告、連絡、相談が必要と判断できる観察力が必要

どのようなことを学ぶとよいか：

実習でシャドウイングをする時にどのような観察をして優先順位をつけているのかを考えながら見る

判断する力

理由：

多重課題に追われる場面が多く優先順位を常に考えながら行動するので、自分で優先順位を考え判断できる力が必要。

どのようなことを学ぶとよいか：

優先順位の付け方や1日の行動計画について事例などを用いて検討する。また、検討した内容について互いに意見を出し合う機会をもつ。

自己管理能力

理由：

体力や精神面など自分の特徴を知り管理することで、自分が成長するにはどうすべきか考えることにつながる。

どのようなことを学ぶとよいか：

自分の性格や特徴を振り返る。

自身のストレスと向き合う力

理由：

感染症対策の観点より、通常の看護や業務が制限されることがストレスとなってくることが多い。求められる看護の質にストレスをコントロールする力が重要になる。

どのようなことを学ぶとよいか：

自分が何に対してストレスを感じているのかを考える機会を作りストレスが及ぼす影響を学ぶ。コーピング方法を作る。

発信力と主体性

理由：

チームの役割を分かっているけどこの要素がないとチームの安全な運用になにも貢献できないから

どのようなことを学ぶとよいか：

普段から考えて行動すること。行動一つ一つに根拠を持つこと。

【17期生】

判断力

理由：

患者の症状から身体で何が起きているのか、リスクはなにか、経過観察なのか医師に知らせるべきなのかなど判断する力が必要になる場面が多いから。

どのようなことを学ぶとよいか：

自分の根拠と先輩と考えを照らし合わせる。自分のアセスメントについて修正していく。

判断力、チームで働く力

理由：

急変時など素早い判断力が必要だと思ったから。また、急性期だからこそチームで協力して仕事を行わないと患者に不利益になることがあるから。

どのようなことを学ぶとよいか：

学習や技術など基礎をしっかりやっておく。吸引の技術をもっとやっておくと良い。

自分自身を大切に思う力・自身を知る力

理由：

大学では自分自身と向き合う時間は少なかったように感じる。大学生のうちから自分自身の好きなことや大切に思っていることを考えておくといいと思う。

どのようなことを学ぶとよいか：

看護師になることだけが目標でなく好きなことや楽しみ方を見つけ、そのためにどうしたいか考えておく。

自己管理能力

理由：

夜勤が多く疲れを癒すストレスコーピングや体調管理を工夫して過ごす必要があるから。

どのようなことを学ぶとよいか：

自己管理を意識する機会を実習や学生生活で設けるといいと思う。

私見をまとめ発言する力

理由：

臨床の場で自分の考える看護や必要と思う治療・患者家族の現状などについて自分の意見を言語化して的確に伝えることにかなり苦労したため。

どのようなことを学ぶとよいか：

授業内でディスカッションの場を増やす。他学年を交えたり先生がファシリテーターになるとより良い

集計結果・評価

【属性】

15期生(卒後3年目)および17期生(卒後1年目)の属性として、現在の職種はほとんどが看護師であり、保健師、養護教諭が1名ずつであった。配属先は、卒後1年目は7名中6名が急性期、卒後3年目は急性期の他に慢性期、母性、老年、在宅、養護教諭などさまざまで、医療職以外の職種が1名であった。

【DPの能力について】

ディプロマポリシー(DP)の能力が現場で発揮できていると肯定的な回答が多かったDPの能力は、卒後1年目では【問題解決力】【看護の専門性を探求する力】、卒後3年目では【自己教育力】【チームで働く力】であった。肯定的な回答が少なかったDP能力は、卒後1年目では【人間の尊厳と権利を擁護する力】【自己教育力】【チームで働く力】、卒後3年目では【問題解決能力】であった。卒後1年目はほとんどが急性期に配属されており、迅速なフィジカルアセスメントや優先順位の判断が求められるため、問題解決力がより発揮されていると推察される。卒後3年目では、チームの中でさまざまな状況に対処している一方で、主体的な学習を継続的に取り組んでいることから自己教育力やチームで働く力がより発揮されていると推察される。

【ディプロマポリシーで示される能力以外に、看護専門職として必要となる力とは】

卒後1年目と3年目をあわせ「判断力」「自己管理能力」という回答が重複していたものの、これらはDPが示す力(問題解決力、自己教育力)にすでに含まれている。

その他の意見に、「ストレスと付き合う力」「発信力、発言する力」があった。これらは、社会人基礎力(経済産業省,2006)にある「チームで働く力」の能力要素としてあげられている。「ストレスと付き合う力」については、コロナ禍における病棟勤務でストレスに晒されることが多く、ストレスコーピングの必要性を強く感じるという意見が述べられていた。「発信力、発言力」については、チームの中で発信力がなければ協働することは難しく、卒後1年目に苦労したという意見が述べられていた。

【まとめ】

今回の調査では回収率が著しく低かったため、少数のデータは収集できたものの、全体の傾向を把握することは困難であった。今年度は同窓会を通じてメールを利用する方法で実施したが、学年の1~2割はメールアドレスをもたないことや、若者のメール離れが回収率の低さにつながったと考えられる。令和2年度に学生支援委員会が実施した卒後1年目の調査では回収率36.5%であったのに対し、今年度は9月19.4%、2月7.1%と明らかに低下している。

同窓会では各学年のSNS(LINE)のルートが確保されており、SNSを利用することで回収数が増えることが推測されることから、次年度の対策として同窓会を通じてSNSで配信することについて検討が必要である。

2021年度 卒業生調査(9月実施分) 集計結果

2021/12/22

実施日：2021年9月10日配信、9月27日リマインド配信

締切日：2021年9月30日

方法：Formsによるアンケート調査（メールによる説明と協力依頼）

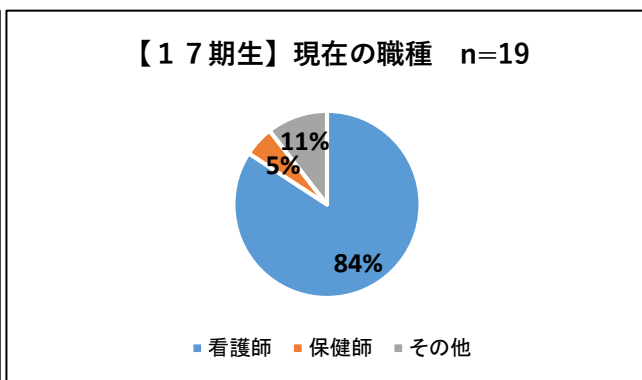
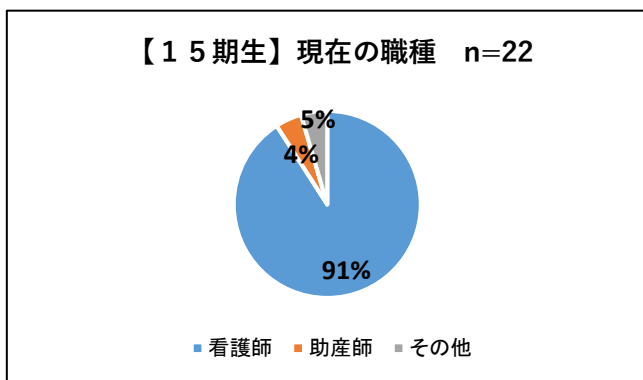
対象：15期生（卒後3年目）、17期生（卒後1年目）

	卒業生数	配信数	回収数	回収率 %
15期生（卒後3年目）	103	95	22	23.2
17期生（卒後1年目）	120	98	19	19.4

問1

現在の職種

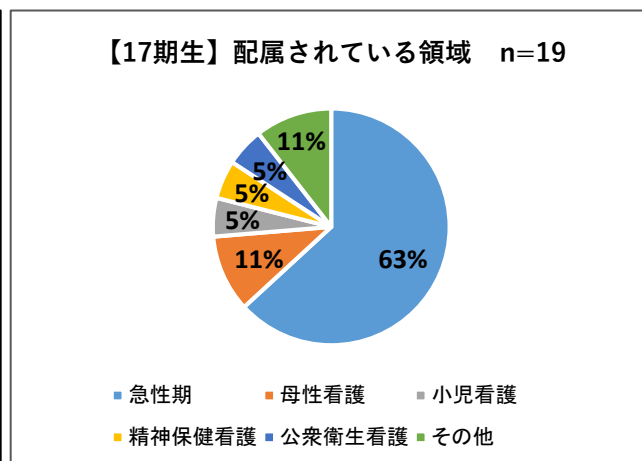
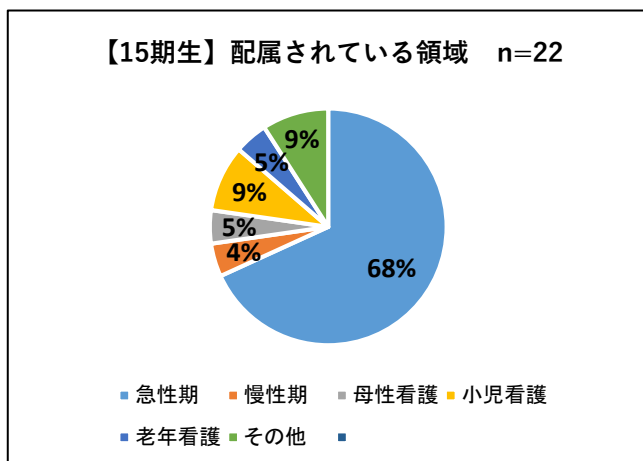
	15期生 n=22	17期生 n=19
看護師	20	16
助産師	1	1
その他	1	2
	(事務職)	(大学院生)



問2

配属されている主な領域

	15期生 n=22	17期生 n=19
急性期	15	12
慢性期	1	0
母性看護	1	2
小児看護（新生児含む）	2	1
老年看護	1	0
精神保健看護	0	1
公衆衛生看護	0	1
その他	2	2
	(美容クリニック、医療機関)	(周手術期、なし)



問3

本学では卒業時に身につけてほしい能力をディプロマポリシーとしての能力は、臨床の現場で役に立っていると感じているか。

【15期生】

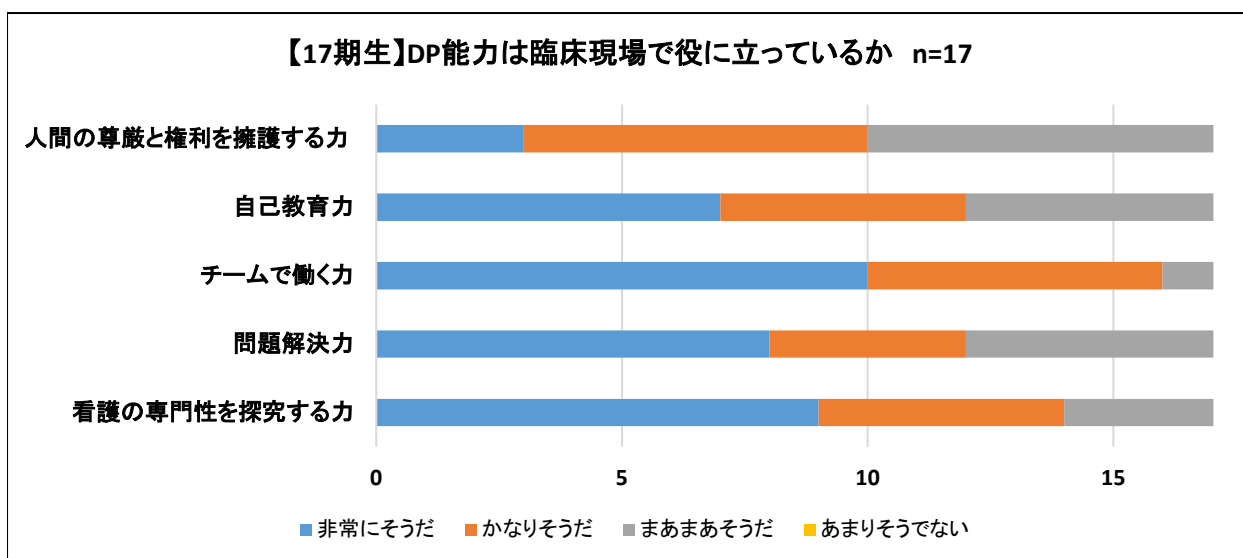
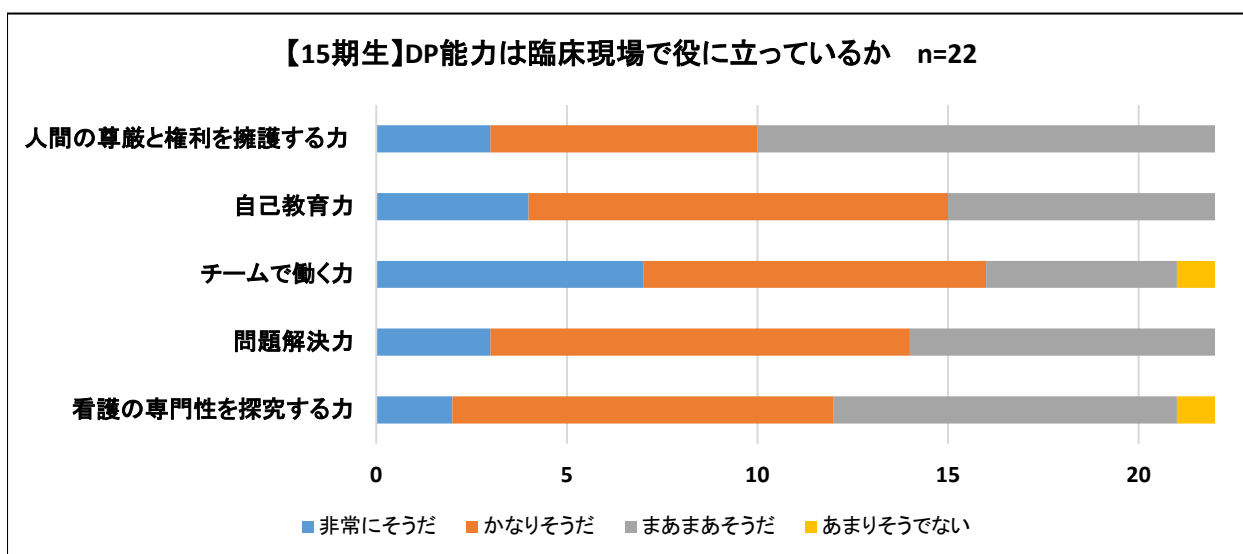
n=22

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	2	10	9	1
自己教育力	3	11	8	0
チームで働く力	7	9	5	1
問題解決力	4	11	7	0
看護の専門性を探究する力	3	7	12	0

【17期生】

n=19

	非常にそうだ	かなりそうだ	まあまあそうだ	あまりそうでない
人間の尊厳と権利を擁護する力	9	5	5	0
自己教育力	8	4	7	0
チームで働く力	10	6	3	0
問題解決力	7	5	7	0
看護の専門性を探究する力	3	7	8	1



問4

本学における以下の授業科目（リベラルアーツ・専門基礎、必修）のうち、臨床の現場や自分自身に【役立っているもの】（複数回答）

科目名	15期生 n=22	17期生 n=19
生命倫理	3	5
心理学	3	1
人間関係論	5	4
アカデミック・ライティング	2	0
基礎力総合ゼミナール	4	3
人体の構造と機能	17	17
生化学	1	0
遺伝学	0	0
生物/化学（ヒトの生命現象）	2	1
社会学	1	0
社会福祉学	3	2
情報機器の操作	0	0
医療概論	1	2
健康行動論	10	5
運動機能論	4	2
病態生理学	9	16
感染と防御	11	10
人体と薬物	13	8
疾病と治療	16	15
統計学	3	2
保健統計学	2	2
栄養学	4	2
英語	0	1
赤十字概論	3	4
赤十字救護・援助法	7	6

問5

本学における以下の授業科目（リベラルアーツ・専門基礎、必修）のうち、臨床の現場や自分自身に【役立っていると感じないもの】（複数回答）

科目名	15期生 n=22	17期生 n=19
生命倫理	2	1
心理学	2	2
人間関係論	2	1
アカデミック・ライティング	2	5
基礎力総合ゼミナール	2	4
人体の構造と機能	4	1
生物/化学（ヒトの生命現象）	4	9
生化学	0	2
遺伝学	6	9
社会学	6	7
社会福祉学	0	5
情報機器の操作	0	0
医療概論	0	2
健康行動論	0	0
運動機能論	4	4
病態生理学	0	0
感染と防御	0	0
人体と薬物	1	0
疾病と治療	1	0
統計学	7	6
保健統計学	5	8
栄養学	1	4
英語	5	6
赤十字概論	6	4
赤十字救護・援助法	7	2

問6

本学における以下の授業科目（専門科目、必修）のうち、臨床の現場や自分自身に【役立っているもの】（複数回答）

科目名	15期生 n=22	17期生 n=19
看護学概論	3	6
看護理論の基礎	3	5
看護過程	13	14
フィジカルアセスメント	20	17
看護コミュニケーション	10	7
看護技術	17	17
治療検査と看護	12	14
キャリアデザイン	1	1
リハビリテーション論	1	5
慢性看護	7	11
母性看護	4	8
小児看護	4	7
老年看護	6	10
クリティカルケア	10	14
在宅看護	5	6
精神保健看護	3	8
がん看護	5	7
地域看護	5	3
専門性強化演習	7	3
災害と看護	3	4
国際保健・看護	0	3
看護とリスクマネジメント	6	11
看護管理	5	4
看護研究方法	4	3
卒業研究	7	3

問7

本学における以下の授業科目（専門科目、必修）のうち、臨床の現場や自分自身に【役立っていると感じないもの】（複数回答）

科目名	15期生 n=22	17期生 n=19
看護学概論	3	0
看護理論の基礎	2	1
看護過程	0	0
フィジカルアセスメント	0	0
看護コミュニケーション	1	0
看護技術	1	0
治療検査と看護	0	0
キャリアデザイン	8	6
リハビリテーション論	4	5
慢性看護	0	0
母性看護	1	1
小児看護	1	0
老年看護	0	0
クリティカルケア	1	0
在宅看護	1	1
精神保健看護	2	2
がん看護	2	1
地域看護	1	1
専門性強化演習	0	2
災害と看護	1	0
国際保健・看護	4	2
看護とリスクマネジメント	1	1
看護管理	6	4
看護研究方法	1	5
卒業研究	1	6

問 8

本学における以下の実習科目のうち、臨床の現場や自分自身に【役立っているもの】（複数回答）

科目名	15期生 n=22	17期生 n=19
日常生活援助実習	14	13
看護過程の展開実習	14	15
慢性看護実習	11	15
クリティカルケア実習	15	17
在宅看護実習	9	11
成育看護実習	10	11
精神保健看護実習	7	10
老年看護実習	11	14
地域包括ケア実習	7	8
看護の統合実習	16	12

問 9

本学における以下の実習科目のうち、臨床の現場や自分自身に【役立っていると感じないもの】（複数回答）

科目名	15期生 n=22	17期生 n=19
日常生活援助実習	5	5
看護過程の展開実習	1	1
慢性看護実習	2	2
クリティカルケア実習	1	1
在宅看護実習	2	4
成育看護実習	2	4
精神保健看護実習	4	3
老年看護実習	1	2
地域包括ケア実習	5	6
看護の統合実習	0	2

問 10

本学の教育内容について（自由記載、例：科目の順序性、開講時期、選択科目のうち必修がよい科目など）

【15期生】

2年生前期のテスト科目数がかなり多くきつかった。時期を分散できたらよいと思う。

研究方法や看護研究の実践力をもっと身につけたかった。

【17期生】

「治療検査と看護」や「疾病と治療」は選択科目でなく必須科目がよい。

「緩和ケア」は選択科目だったが、急性期病院から緩和ケアに移行される患者様が多いため必修科目がよいと思う。

「人体の構造と機能」は難しく入学当初からつまづいた経験があるため、難易度を考慮した授業内容にするとよいと思う。

課題の量が減るとよい。

問 1 1

本学の教育体制について「最も良かったこと」について（自由記載）

【15期生】

臨床では様々な場面で他職種と意見交換することが多いため、アクティブラーニングでの学びが役に立った。

3年時の領域別実習は、自身の興味のある分野を見出すことができただけでなく、苦手分野も楽しさを見出すことができるととても良い経験となった。

プレゼンテーションする機会が多かったので、考えて発表する力が身についたのはよかった。

上手く休息を取りながら実習が行えたため実習期間のサイクルが良かった。

先生との距離が近くわからないことを聞きやすかったことは良かった。

AAの教員と関係性が築きやすく、就職活動の相談もしやすかったので良かった。

グループワークやシュミレーション学習は、臨床現場で活かすことができているため良かった。

ゼミなど少人数のグループでの活動があったことで、チームワークやコミュニケーション力、周りの意見を知る力を培うことができた。

【17期生】

AAゼミで4年間を通して同じメンバー・先生で交流があったおかげで頑張ることができたのは良かった。

臨床現場で抑制や倫理問題について考えることができるようになった。

AAゼミで他の学年と関わりがあり、勉強の仕方や学校生活のことを聞くことができたのは良かった。就職してから顔を知ってる先輩がいることで安心感があった。

少人数でのグループワークやディスカッションが多かったことで、臨床現場でリーダーシップを発揮しチーム内で発言をする能力が養われた。

先生と生徒の距離が近く、相談しやすかった。

問 1 2

卒業生として本学に「取り組んでほしいこと」または「期待すること」について（自由記載）

【15期生】

英語のスピーキング力の向上ができるよう英語で行う授業に取り組んでほしい。

臨床現場にはどの領域にも海外の患者様がいるので、医療英語を学ぶ機会があると良いと思う。

【17期生】

手術室に配属され初めてのことでばかりで圧倒されたので、手術室を含む周術期看護の実習があると良いと思う。

臨床で困ったことがあったため、採血や点滴などの看護技術をもっと練習できるとよいと思う。

PPE（個人防護具着脱）を毎日行っているため、しっかり身につけられるようにしておくとういと思う。

学生の頃にヒヤリハットをしっかり反省しておけば臨床でインシデントを起こさなかっただろうという体験をしたので、臨地実習でヒヤリハット報告を積極的にできる機会がもてるとよいと思う。

電話対応が業務のほとんどを占めるので、相手との受け応えができるような演習があると良い。

集計結果のまとめ・考察

【属性】

15期生(卒後3年目)および17期生(卒後1年目)の属性として、現在の職種は8～9割以上が看護師であり、保健師、助産師は各学年で1名ずつであった。その他として、卒後1年目で大学院生が2名、卒後3年目で医療事務が1名であった。所属では、両学年ともに急性期の割合が6割以上であった。本調査では概ねすべての領域から回答が得られた。その他として、卒後3年目で美容クリニックの回答がみられた。

【DP能力について】

ディプロマポリシー(DP)の能力が現場で役に立っているかという回答について、「非常にそうだ」「かなりそうだ」の回答が多かったDPの能力は卒後1年目・3年目ともに【チームで働く力】【自己教育力】、最も少なかったのは卒後1年目、3年目ともに【看護の専門性を探究する力】であった。

相違点として、卒後1年目では【人間の尊厳と権利を擁護する力】、卒後3年目では【問題解決力】について「非常にそうだ」「かなりそうだ」の回答が多かった。臨床現場で求められる看護実践能力として、卒後1年目は援助役割として心遣いや患者に寄り添うことを重視し、卒後3年目では患者の状態変化や治療的介入をモニタリングし対処することを重視していることが反映されたと推察される。

【授業科目(リベラルアーツ・専門基礎、必修)について】

卒後1年目、3年目ともに役に立っている科目として【人体の構造と機能】【感染と防御】【人体と薬物】【疾病と治療】の回答が多くみられた。急性期病院に配属されている割合が多いことから、医療に直接役立つ科目が選択されたと推察される。

また、役に立っている科目として回答が最も少なく、かつ、役に立っていると感じない科目として【遺伝学】の回答が最も多くみられた。遺伝性疾患を取り扱う遺伝性診療科は子どもを対象とすることが多く、卒業生が臨床現場で出会う機会は少ないことがその理由として推察される。しかしながら、遺伝子検査を受ける患者は増加している背景から看護師に必要とされる知識である。医療の動向をふまえて遺伝学で教授する内容を精選する。

その他、同様に役に立っている科目として回答が少なく、かつ、役に立っていると感じない科目として【社会学】があげられる。社会学は、看護の対象である人、生活、環境など理解するために必要な科目であるため、教授内容については、授業アンケートをふまえて、担当教員と調整する必要がある。

【授業科目(専門科目、必修)について】

卒後1年目、3年目ともに役に立っている科目として【フィジカルアセスメント】【看護技術】【看護過程】の回答が多くみられた。これらは看護の基盤となる科目であり、卒業生が所属する急性期、慢性期、小児、母性などの病棟などにおいて幅広く役立てられていると考えられる。

また、役に立っている科目として回答が少なく、かつ、役に立っていると感じない科目として【キャリアデザイン】【国際保健・看護】【看護管理】の回答が最も多くみられた。これらの科目は、卒後1年目・3年目において臨床現場で活用される機会が少ないことが要因として考えられた。

【実習科目について】

卒後1年目、3年目ともに役に立っている科目として【クリティカルケア実習】【看護過程の展開実習】に多く回答がみられた。相違点として、卒後3年目では【看護の統合実習】【日常生活援助実習】が多くみられ、卒後1年目では【慢性看護実習】【老年看護実習】が多く見られた。これらは卒業生の配属先に基づくものと推察される。

また、役に立っている科目として回答が少なく、かつ、役に立っていると感じない科目として【地域包括ケア実習】の回答がみられた。【地域包括ケア実習】において、退院支援部署、居宅介護支援事業所(ケアプランセンター)、地域包括支援センター等で学んだケアマネジメントについては、卒後1年目・3年目の段階では直接関連することが少ないことが理由として推察される。

【自由記載より】

・授業形態として、グループワークを含んだアクティブラーニングを取り入れることによって、臨床現場に必要とされる自己の考えを述べる発言・発信する力や傾聴する力、主体的に学習する力等の習得につながっていると考えられるため、今後も各科目で工夫を継続する。

・アカデミック・アドバイザー(AA)によるサポート体制により、学習支援のみならず心理的サポートにつながっていたことから、今後も継続する。